

つくばスタートアップ・エコシステムが目指す 将来像

令和6年5月10日

1 将来像策定の趣旨

- 2020年7月、つくばが参画する「スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム」が政府のスタートアップ・エコシステム・グローバル拠点都市に選定され、**世界と伍するSU創出の拠点**となるべく位置付け
- その中で、つくばの研究シーズからグローバルに活動するスタートアップが生まれ、成長していくことが期待されている
- その実現のためには、つくばの研究シーズが世界中のヒト・モノ・カネと結び付いて事業化し、成長が促進される仕掛けとなる「**エコシステム**」を構築する必要
- このため、つくばコンソーシアムにおいて、つくばの特長を活かし、**目指すべき将来の姿を明確化**することにより、関係者の共通認識のもと**地域一丸となった取組を推進**
- さらには今後の国の交付金等の活用を見据え、つくば地域でのスタートアップにつなげていく

2 つくばのスタートアップ・エコシステムの現状と課題

(1) 研究シーズの集積とSU創出数・投資額

研究シーズの集積に比べ、**一定規模まで成長するSU数及びSU投資額が低い水準**
 (= **成長支援が不足している可能性**)

都市名	研究成果発表数 A	SU創出数		SU投資額 (億円/年) D (D/A比)
		総数 (累計) B	資金調達1億円以上 (社/年) C (C/A比)	
東京圏	904.71	1,616	—	2,838億円 (3.14)
(うち、つくば)	233.24	384	4社 (0.02)	68億円 (0.29)
ボストン・ケンブリッジ	1,791.73	2,657	128社 (0.07)	4,400億円 (2.46)
ニューヨーク	871.78	12,555	79社 (0.09)	9,000億円 (10.32)
フィラデルフィア	545.23	—	27社 (0.05)	1,100億円 (2.02)
パリ	1,149.28	5,024	—	4,070億円 (3.54)
シンガポール	559.08	8,196	—	2,420億円 (4.33)

※研究成果発表数：NatureIndex Share値(2020)、SU創出数・投資額：内閣府(2020)、市戦略・SU Genome・StartupDB(2017-21平均)、CIC調査(2018-20平均)
 (参考) 各都市の研究成果発表数

つくば 233.24	筑波大：54.92 物材研：84.93 産総研：71.49 高工ネ研：21.9	ボストン・ケンブリッジ 1,791.73	ハーバード大：923.94 MIT：561.57 ボストン大：107.02 ほか
		ニューヨーク 871.78	コロンビア大：304.14 ニューヨーク大：192.48 ロックフェラー大：93.6 ほか
東京 650.20	東大：431.41 東工大：149.51 慶応大：43.65 早稲田大：25.63	フィラデルフィア 545.23	ペンシルベニア大：301.04 ペンシルベニア州立大：200.57 ほか
		パリ 1,149.48	国立科学研究センター：730.01 ソルボンヌ大：111.4 ほか
		シンガポール 559.08	シンガポール国立大 253.73 南洋理工大：231.95 ほか

(2) スタートアップ支援策

- ・情報面の支援について、各主体の取組の面的な情報発信力の**更なる強化が必要**
- ・創業・成長を集中支援すべき、プレシード・シード・アーリー期における**ヒト・モノ・カネの支援が不足**

→ヒト：エンジニアや経営人材

モノ：小・中規模の安価なオフィス（インキュベーション施設は慢性的に満室）

カネ：VC等のリスクマネー

● 支援策の数

成長段階	潜在的起業希望期	設立準備期 (プレシード期)	創業期 (シード期)	事業化期 (アーリー期)	成長期 (レター期)	
特徴 ニ ー ズ	ビジネスプラン・ 販路等(情報)	・情報収集 ・起業準備 9	・ビジネスプラン検討 11	・事業計画策定 ・製品開発, 販路開拓 15	・製品開発, 量産化 ・販路拡大 14	・黒字化 ・出口戦略(IPO等) 12
	人材(ヒト)	3	・共同創業者探し 4	・従業員(1~5人程度) 5	・従業員(1~50人程度) ・組織化 3	・従業員(6~300人程度) ・組織拡充 3
	インフラ(モノ)	2	・コワーキング, シェアオフィス 5	・コワーキング, シェアオフィス ・研究開発設備 6	・オフィス拡張 ・研究開発・生産設備 5	・オフィス拡張 ・研究開発・生産設備 3
	資金(カネ)	2	・創業資金集め 2	・資金調達 5	・資金調達 2	・資金調達 2

※ヒト・カネの支援については、**各スタートアップ・エコシステム拠点都市においても同様の傾向**

(グローバル拠点都市：東京・中部・京阪神・福岡 推進拠点都市：札幌・仙台・広島・北九州)

ヒト ・経営人材、CXO人材、土業が不足
・従来の雇用環境では人材流動が困難

カネ ・エンジェル投資家やVCが少なく全ステージで資金不足
・出資やハンズオン支援を受けるために東京に本社を移転
・海外からの資金調達が少ない

情報 ・メンター・ロールモデル、起業家同士のネットワークが不足
・グローバル展開の戦略をアドバイスできる人材や支援メニューが不足

(3) 国研、民間研究機関、VC、アクセラレーター等へのヒアリング結果

- ・つくばの研究シーズは魅力があるが、**アクセス性に改善の余地**あり。産業化の視点でフィルタリングして**リスト化**するとともに、**マッチング**の機会を増やせばより効率的に接触が可能
- ・エンジニアや経営人材といった**人的資源**の確保も重要
- ・**研究者が集まる拠点に多様な人材を集積**させてコミュニティをつくり、起業を後押す施策に期待

3 エコシステムの将来像

つくばの研究シーズが国内外のヒト・モノ・カネと結び付き事業化し成長する
世界有数のディープテック・スタートアップ・エコシステム

目指すべき水準・姿（中長期：10年）

- ・つくばで成長したSU等が新たなつくば発SUへ投資し、**成長を支援する好循環**を形成
- ・1億円以上の資金調達SU創出数／年：**16社** ← 4社（2017-2021平均）
- ・SU投資額／年：**570億円** ← 68億円（2017-2021平均）

※ 目指すべき水準の考え方…研究開発型スタートアップ・エコシステムの先進地であるボストン・ケンブリッジの効率性を目安に「つくばの研究シーズ数233.24」×「ボストン・ケンブリッジにおけるSU創出数(0.07)及び投資額(2.46)の割合」で算出